



発行日 令和4年7月発行 第107号
 発行元 社会医療法人 昴和会 内山病院 編集委員会
 連絡先 鹿児島県阿久根市高松町2番地
 TEL:0996-73-1551
 FAX:0996-73-4636
 Homepage <http://www.uchimt.com/>
 E-mail uchimt@uchimt.com



| | |
|-----------|---------------|
| 巻頭言・・・P1 | 診療一口メモ・・・P2 |
| 部署紹介・・・P2 | 委員会活動・・・P2～P3 |
| 行事紹介・・・P3 | 編集後記・・・P4 |

巻 頭 言



透析室 係長 越竹 克行

昨年より、腹いっぱい食べたいという思いから、家庭菜園でスイカを作り始めたのですが、思いのほか収穫でき、今年もスイカ 5 株と、味を占めてメロンも挑戦しています。調子に乗りすぎて始めたスイカとメロンですが、人工授粉も成功し、あとは大きくなるのを待つだけです。

近年世界各国落ち着かない日々が続いている中で、昴和会も新時代に向けて日々、変化が起きているのを感じています。残念なことに戦争、新型コロナウイルスの影響によるロックダウン、診療報酬の引き下げなどで、収益に対し、支出が大きすぎる状況です。苦しい状況下での新時代のスタートとなっ

ていると思います。決して楽ではない時代に生きていけないといけないことは運が悪かったなと思うのですが、嘆いていても仕方がないのでコーヒーでも飲んで一息つきながら、ぼちぼち頑張っていきましょう。

さて、この度、入院透析患者を2病棟にまとめ、透析と病棟の兼務スタッフの育成がスタートしました。手探りでスタートした試みであり、これが今後どういう影響をもたらすか、やってみないと分かりません。考え方によっては、自分たちで新時代を作っていく。そういう機会が巡ってくるチャンスもなかなかないと思われるので、各スタッフ大変なことも多いとは思いますが、食欲に業務に取り組んでいけることを期待したい。

ど素人でもスイカやメロンはできます。とりあえず頑張ってみましょう。頑張った先に何かしらの結果はついてきます。



診療一口メモ

循環器内科 大野 綾香

日常生活の中で動悸を自覚される方は多いです。心配になり病院を受診される方も多くいます。動悸とは心拍動を自覚したときに感じるものです。不整脈、正常心拍のいずれでも動悸を感じることがあります。動悸の原因として、心臓が原因のもの(不整脈、心不全、狭心症など)、心臓以外が原因のもの(貧血、甲状腺疾患、発熱、脱水、薬剤性、心因性、交感神経の亢進など)があります。治療が必要な動悸なのか、様子を見ていい動悸なのか、を判断することがとても大切です。例えば、交感神経の亢進(運動、緊張、興奮など)で感じる動悸は正常の反応であり、治療に必要ないことがほとんどです。

不整脈についてお話します。不整脈の診断には、心電図の記録が必要です。不整脈の中には発作性に生じる(突然始まり、しばらくすると治まる)ものがあり、病院に来た時には動悸が止まっており、不整脈なのかどうか分からないことも多いです。いつもと違う動悸を感じる場合には、可能であれば動悸を感じている間に病院を受診することをおすすめします。また、自分で脈を触れてみたり(心拍数や脈のリズムを感じてみてください)、血圧を測ったりすることも診断のヒントになることがあります。その他に、随伴する症状(めまいや立ち眩み、胸痛、不安感など)や動機を感じる時間帯などあればこちらも診断の参考になることがありますので、病院スタッフに必ず伝えるようにしてください。

動悸の頻度が多いけど診断には至っていない方には、24時間心電図を装着する検査もあります。お気軽にご相談ください。

不整脈の中には、緊急を要するものや、心不全、脳梗塞の原因となるものもあり、診断と治療が大切です。何か心配な事があれば病院を受診してみてください。

部署紹介

阿久根訪問看護ステーション

管理者 原田 亜祐美

阿久根訪問看護ステーションは内山病院に併設されている事業所であり、看護師5名、事務員1名、作業療法士2名の計8名で活動しております。

年々在宅においても医療ニーズの高い利用者やリハビリを必要とする利用者が増えてきており、訪問看護への期待はますます高まってきています。このような背景から地域のニーズに見合うサービスとして効果的・効率的に提供できる体制を整えていくことが今後の課題と感じております。主な疾患として、循環器疾患、がん患者の割合が多く、日常的な医療ケアを必要とする利用者の増加から、夜間、休日を含め24時間365日サービス提供の確立が求められてきています。

「いつも住み慣れた我が家で、自分らしく過ごしたい」という地域包括ケアシステムの本質に基づき看護師がチームの中心的役割を担い、電話相談や緊急対応、ICTの活用により医師や介護医療職と協働で連携を図り、在宅生活を支援しております。

委員会活動

医療安全管理委員会

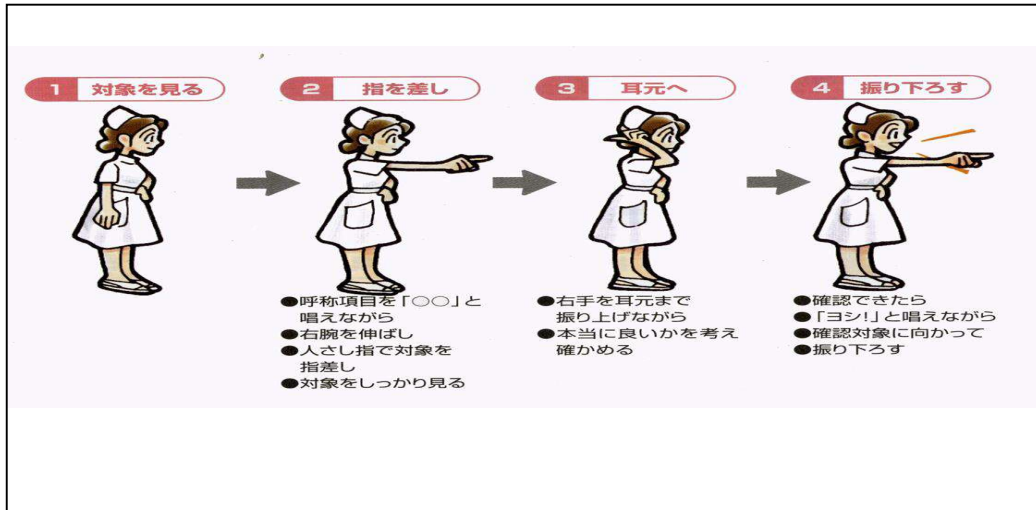
医療安全管理者 石澤 淳子

令和4年度の医療安全管理目標は「手順遵守が習慣化した職場風土を作り上げる・指差し呼称の定着」です。前年度も「手順遵守の習慣化」に取り組みましたが、インシデント・アクシデント発生時「確認はしたが・・・」

「ダブルチェックはしたが・・・」

発生原因に「確認不足だった・・・」「しっかり確認しなかった・見なかった」といった報告が多く、再発防止（何をしておけばよかったか）には「確認の徹底・手順遵守・呼称確認」をしておけばよかったといったコメントが多く書かれています。

指差し呼称の効果は安全研修でも度々お話していますが、なかなか現場で取り入れていない現状です。今年度は指差し呼称を積極的に行い未然防止に努めましょう。



基本動作を理解した上で、現場に合った動作で呼称確認を行ってください

（例）CAさんは機内での確認を指差し呼称しています。とても上品に！

薬の確認は処方箋の文字を指で指しながら声に出して確認してください（内服・注射等）

ラウンド時どのように指差し呼称を行っているか確認します。

今年度も大きな事故が発生しないよう全職員で取り組みましょう

行事紹介

昴和苑(6月アジサイ作成)



昴和苑では、季節の行事としまして、6月は紫陽花の壁画作成に取り組みました。1作目は千代紙を両手で丸めてもらい広用紙に貼りつける作業を行いました。色とりどり貼る方もいらっしやれば、色分けをしながら一つ一つ大きさを整えながら貼りつけている方もいらっしやいました。花びらのみ貼り付けを終えると、利用者様から『昔の玄関マットじゃんなあ〜』と意見が出ると、他の利用者様からも『あった！あった！こげんとがあったがああ〜』と話が盛り上がり連相ゲームの様に色々な意見がありました。後付けにて葉っぱや雨を調整し

玄関入口に飾らせていただきました。

2作目は、折り紙を使用し紫陽花の花びらを作りました。利用者様は、最初から最後まで花びらを折る作業が難しく、ハサミにて折り紙を切る方、三角の状態に折る方、ひし型まで折る方など個別に分担し、切ったり、折ったりと手分けして取り組みました。花びらを、広用紙や厚紙、紙皿に貼り付けてもらい、出来上がった紫陽花は食堂の壁に飾らせて頂き、利用者様からは、『きれいなあ〜』『華やかになったなあ〜』『わからん』などの声が聞かれました。コロナ禍でも、利用者様が楽しめるよう苑内行事を考えて毎日実施しております。



個人情報保護法により、早蕨掲載の写真及び名前については本人の同意を得ています。

基本理念

- 1 質の高い思いやりのある医療福祉の実現
- 2 地域に必要とされる医療福祉施設に育成・発展させる

基本方針

- 1 患者の立場に立った高齢者医療介護福祉施設の充実に積極的に寄与する
- 2 プライマリーケアを実践する中で、今までの実績の更なる積み重ねと時代の求めに応じた拡大を目指す
- 3 人材の育成
- 4 経営の安定化・事業の展開
- 5 品質管理（危機管理・安全管理・利用者の満足度向上）

患者の権利

- 1 患者様は、「平等で良質な医療を受ける権利」があります。
- 2 患者様は、「選択と自己決定の権利」があります。
- 3 患者様は、「個人の秘密保持・情報に関する権利」があります。
- 4 患者様は、「尊厳性の権利」があります。
- 5 患者様は、「安全が確保される権利」があります。

患者様の義務

- 1 患者様は、ご自身の健康に関する情報を提供する義務があります。
- 2 患者様は、病院のルールを守り、医療に参加する義務があります。
- 3 患者様は、他の患者様の医療を妨害しない義務があります。
- 4 患者様は、医療費を支払う義務があります。

編集後記

ワクチン接種などとともにコロナ禍で学んだ新しい生活様式にもすっかりなじみつつあります。新型コロナウイルスの感染者数も増えてきて心配だと思えます。引き続き、感染防止に努めていきましょう。今回、早蕨原稿にご協力くださいました皆様ありがとうございました。